

# 松阪市子ども支援研究センターだより

E-mail: kyo.div@city.matsusaka.mie.jp <http://www.city.matsusaka.mie.jp>

松阪教育支援センター「鈴の森教室」TEL 26-1900 FAX 26-1901 E-mail: suzunomori@matsusaka.ed.jp  
 松阪教育支援センター「うれしの教室」TEL 42-7374 FAX 42-4568 E-mail: [uresino-k@matsusaka.ed.jp](mailto:uresino-k@matsusaka.ed.jp)

## 志を失わず、日々実践

私は、大学を卒業後、大阪府豊中市の中学校（全校生徒数1400人、33クラスのマンモス校）に4年間勤務しました。赴任の年に一年生を担当し、二年生のクラスの授業では、「起立」「礼」「やり直し」のくり返しで1時間の授業が終わったり、「教え方が悪いのでわからない」「ちゃんと聞いてないほうが悪い」と言い争ったりしました。

そんな様子をいつも見守ってくださっていた先輩の先生方から、これまでの様々なエピソードを必ずオチのある大阪人らしい笑い話として、職場でも仕事が終わってからも色々な場で何度も聞かせていただきました。まさに“悩む暇もない”毎日でした。そのうち「今できることを一生懸命やるしかない！」と思えるようになりました。地元の松阪に戻ってからもこのときの先生方とおつきあいは続き、これまで何とかやってこられたのも、松阪での先輩方同様、そのおかげです。

担任をした学年の、10才違いの子どもたちとの初めての同窓会で「先生、今日みたいに笑ってたらよかったのに」と言われました。なるほど、その頃は「なめられたらあかん」と無理をして、よほど怖い顔をしていたのでしょう。

若い先生諸君！大変でしょうが、教師をめざしたときの志を失わず、自分の感性を大切に、失敗を恐れず、日々実践して下さい。先生方の『若さ』は、それだけで子どもたちにとってはとても大きな魅力なのでから・・・



（ 所長 藪 晃明 ）

## 研修講座報告3

講座の様子をご紹介します！

B-21 乳幼児教育Ⅲ「リズム遊びと集団ゲーム」

講師 鈴木 寿子 先生

何歳の遊びというのではなくアレンジして発達に合わせていくことや、1つの遊びも展開の方法で違う遊びになること等について教えていただきました。また、先生から教えていただいた事例を土台として創意工夫をしていくことができることを、体験的に学ぶことができました。子どもたちに達成感を味わわせるための手立てや演出についても知ることができました。



B-6 人権教育「生活つくり方魅力満載～過去は変えられるのに～」

講師 大久保 幸一 先生



生活つくり方の指導を通じて、教員が持つべき視点、つかむべき子どもの姿について、実際の子どもの作文等も紹介いただきながら、お示しいただきました。「子どもを丸ごと受け止める」という言い方をしますが、そのことの意味について、受講者自身が、自分の教室や、子どもたちの顔を思い浮かべながら考えるきっかけとなったのではないかと思います。「9月から実践したいという思い（心の動き）が止まりません。」という受講者の声が、講座の熱を伝えてくれます。

B-11 学級づくりⅠ「ハッピーな学級を作ろう～魁・殿（さきがけ・しんがり）教師と凸凹のある子どもたち～」

講師 金 大竜 先生

子どもたちが安心できるつながりや教室のムード作り等を教えていただきました。金先生の実践のノートや児童のワークシート等、具体的な資料も提示していただく中で、一人ひとりの先生方が課題を明確にして、そこに向かって何ができるか自分で考えられるような講座となりました。講座終了後も、金先生と多くの先生が輪になって、いろいろな課題について話をされていました。



B-12 学級づくりⅡ「岩手県矢巾町のいじめ・自殺問題の教訓とユーモア詩の取り組み、及び学級崩壊からの脱却のためのワークショップー子どもの不快感情を共有することの意味ー」

講師 増田 修治 先生



子どもたちの悩みや苦しみに共感する等、子どもたちとの関係づくりについて学びました。実践のレポートを基にグループで話し合ったワークショップでは、一人では気づかない様々な視点からレポートを読み合うことができました。また、今後の手だてを話し合う活動を通して、学級をどう立て直していくのかなど、学級づくりを考える貴重な時間となりました。

B-17 特別支援教育Ⅱ「リバイバル自閉症ーPDD～ASDを巡って」

講師 志村 浩二 先生

自閉症の特異性（感覚〈五感〉、認知、運動、人への関心、意味〈理解〉）について、それぞれの具体例を挙げながら詳しくご教授いただきました。また、現在の自閉症の診断基準が世界保健機関（WHO）と米国精神医学会（APA）によって異なることや、診断名も異なること等について、これまでの経緯も含めてわかりやすく解説していただきました。



B-8 生徒指導「不登校児童生徒へのかかわりにあたって」

講師 森川 泉 先生



前半の講義では、不登校児童生徒への対応について、不登校には5つの段階があり、その段階に応じて適切な支援をすることが大切であること等について教えていただきました。後半のクエスチョンタイムでは、受講者から日々の実践の中で悩んでいることや、森川先生に教えていただきたいことなどの質問がたくさん出され、それら一つひとつに丁寧に答えていただきました。

A-5 図画工作/美術「図工の授業づくりー実技と講義を通してー」

講師 竹井 史 先生

自然材を用いることによって、子どもたちが自分を自然に合わせにいこう、近づいていこうという姿勢を身に着けていくことを教えていただきました。また、アースケーキ作りとオカリナ作りの実技から、自然材とのふれあいにより感性や知性を育むことを体験することができました。「実習を伴う研修だと、肌で実感できます。」「どんな教材、材料を取り入れるかしっかり考えたいです。」等の感想もあり、今後の授業づくりの大きなヒントを得られる講座となりました。

